



「今日、実験台になっ	ま部屋に入ってきた。	レイカともう二人が、謝りながら私服のま	「ごめん、ごめん遅れちゃった」	なあと思いがら。	丈志が首を傾げた。確かに否定はできない	「そうですか」	んて、なんか変な感じだよね」	「部屋の中に居て、丈志が服を着ているな	いながら。		綾が右足で、丈志の左の太股を蹴った。笑	「何言ってるのよ」	「でも、二人でまったりも素敵です」	うにして座っていた。	座り、丈志は正座を崩した、お嬢様座りのよ	綾は足を前に投げ出し、後ろに手をついて	た。	綾と丈志は、部屋の中でまったりとしてい	時間は一時を十五分経過していた。	「三人とも遅いわね」
------------	------------	---------------------	-----------------	----------	---------------------	---------	----------------	---------------------	-------	--	---------------------	-----------	-------------------	------------	----------------------	---------------------	----	---------------------	------------------	------------

[illegible]

サ	「	ど	「	か	も	「	を	と	「		会	四		デ	カ	キ	の	や	の	
ク	了	う	私	「	ら	は	勉	一	え		の	人	レ	ニ	ス	ヤ	T	ゴ	白	レ
ラ	解	や	も		え	い	強	本	え		確	で	イ	ム	ガ	ミ	シ	ー	の	イ
と	、	っ	、		ら	、	し	鞭	と		認	輪	カ	の	プ	ソ	ヤ	ル	ミ	カ
ユ	分	て	ロ		ば	出	た	で	、		を	にな	と	短	リ	ー	、	ド	ニ	は
カ	か	い	ー		な	来	い	ユ	今		始	っ	サ	パ	ン	ル	サ	の	ス	光
リ	っ	る	ソ		っ	れ	ん	カ	日		め	て	ク	ン	ト	、	ク	チ	カ	沢
の	た	の	ク		て	ば	だ	リ	は		た	座	ラ	姿	さ	ユ	ラ	ー	ト	の
返	「	か	と		°	、	よ	は	、		°	り	と	だ	れ	カ	は	に	あ	ある
事		、	か		自	全	ね	ア	サ			、	ユ	っ	た	リ	薄	、	ス	ト
を		出	縛		分	体	「	ナ	ク			レ	カ	た	ピ	は	い	デ	胸	レ
聞		来	り		の	的		ル	ラ			イ	リ	ン	ク	白	鶯	コ	の	ッ
い		ば	を		プ	に		、	は			カ	も	ク	の	い	色	レ	部	チ
て		参	す		レイ	参		指	、			が	腰	T	T	大	の	ー	分	サ
か		考	る		が	考		と	カ			今	を	シ	シ	き	膝	ト	を	テ
ら		に	時		ど	に		ペ	テ			日	下	ヤ	ハ	な	上	さ	シル	ン
、		「	と		う	さ		ニ	ー			の	ろ	ツ	イ	ハ	ま	れた	バ	素
レ			か		な	せ		バ	テ			講	し	に	ビ	ス	で	黒	ー	材
イ			、		の	て		ン	ル			習	て	、	、	ス	の			

て			っ		た			だ			で	れ			イ				カ
き	「	「	て	「	°	レ	「	け	「		、	ば	い	そ	ス	「	「	「	が
て	じ	は	い	ま		イ	頑	ど	時		初	、	っ	の	ト	あ	綾	綾	に
°	ゃ	い	た	あ		カ	張	な	間		フ	フ	も	お	し	の	も	聞	いた
出	あ		だ	、		と	り	あ	が		イ	イ	プ	客	て	、	時	間	°
て	、		き	丈		綾	ま	°	あ		ス	ス	レ	さ	み	フ	あ	れ	
く	と		ま	志		の	す	丈	れ		ト	ト	イ	ん	た	イ	ば	っ	
る	り		し	が		交		志	っ		を	で	が	は	い	う	て	言	
時	あ		よ	頑		互		ど	て		し	き	終	丈	う	じ	っ	て	
は	え		う	張		に		う	類		よ	そ	わ	志	お	や	言	っ	
裸	ず		ー	る		見		す	の		ね	だ	っ	た	客	ない	っ	て	
で	丈			と		な		る	プ		と	か	後	°	さ		言	っ	
い	志			言		が		ー	レ		話	ら	、		ん		て	た	
い	、			う		ら			イ		し	い	あ		が		た	け	
か	シ			の		丈			で		て	っ	と		居		け	ど	
ら	ヤ			な		志			も		いた	二	少		て		ど	、	
ー	ワ			ら		が			ない		の	人	し		ー		何	「	
	ー			、		宣			ん		だ		張		フ				
	浴			頑		言													
	び			張		し													

レ	「	ち	っ	い		し		ン	の		に			距		ん	際		レ	
イ	さ	程	た	描	い	た	丈	ヒ	私		床	レ	「	離	レ	で	に	シ	ス	丈
カ	あ	度	が	き	っ	°	志	ー	服		に	イ	丈	を	イ	用	は	は	志	は
の	、	の	、	、	な		は	ル	姿		来	カ	志	取	カ	意	、	ワ	プ	は
顔	女	固	初	オ	ら		、	を	だ		る	が	こ	っ	が	さ	今	を	レイ	バス
も	王	さ	め	チ	、		レ	履	っ		よ	こ	こ	、	た	れ	ま	浴	の	ル
声	様	の	て	ン	こ		イ	い	た		う	に	に	綾	い	て	で	び	用	ー
も	へ	ま	の	を	れ		カ	た	が		に	取		達	た	°	見	て	意	ム
、	挨	ま	実	勃	か		に	°	、		指	っ		三	こ		た	、	に	に
普	拶	だ	験	起	ら		命		足		示	た		人	と		こ	丈	取	向
段	を	っ	台	さ	め		令		に		し	乗		が	も		も	志	り	か
と	お	た	の	せ	ら		さ		プ		て	馬		床	な		ない	が	か	い
は	し	°	緊	て	れ		れ		レイ		°	鞭		に	道		道具	出	か	、
違	「		張	い	る		た		用		相	で		座	具		まで	て	っ	四
う			で	た	こ		場		の		変	、		っ	ま		、	く	た	人
女			、	丈	と		所		黒		わ	自		て	子		と	°	°	の
王			ま	志	を		に		い		ら	分		い	に		、			ミ
様			半	だ	思		正		ピ		ず	の		た	座		壁			ス
の			立				座					前		°	り		並			ト

「	チ	を			た		う		ろ		前		履			習		願		も
お	ン	あ	レ	「	ま	レ	か	「	う		奴	「	い	頭	「	だ	滲	い	「	の
ま	を	げ	イ	顔	ま	イ	、	は	「		隷	挨	た	を	違	と	み	致	レ	だ
え	踏	る	カ	、	で	カ	お	、			な	拶	足	下	う	い	出	し	イ	っ
、	み	と	が	あ	、	に	許	は			ん	の	で	げ	だ	う	る	ま	カ	た
怒	に	、	足	げ	許	踏	し	い			だ	時	踏	て	ろ	こ	ミ	す	女	。°
ら	じ	レ	を	「	し	ま	く	、			ろ	は	み	い	「	と	ス	「	王	
れ	っ	イ	外		を	れ	だ	申			、	、	つ	る		を	ト		様	
て	て	カ	し		請	て	さ	し			私	額	け	丈		忘	レ		、	
い	き	の	、		う	、	い	訳			に	を	て	志		れ	ス		本	
る	た	ハ	恐		た	額	ま	あ			い	床	き	の		、	の		日	
の	°	イ	る		°	を	せ	り			じ	につ	た	頭		レイ	オ		は	
に		ヒ	恐			床		ま			め	ける	°	を		カ	ー		ご	
、		ル	る			に		せ			て	る		、		の	ラ		調	
な		が	丈			押		ん			も	んだ		ハ		前	に		教	
ん		、	志			し		だ			ら	ろ		イ		に	、		よ	
で		オ	が			つ		、			いた	、		ヒ		跪	丈		ろ	
こ		チ	上			け		た			ん	°		ー		いた	志		し	
こ、		ン	半			られ		ど			だ	お		ル		。講	は		く	
			身											を			講	お		

よ	手	丈			や	ハ		と						思		大		起	う		こ
う	に	志	レ	「	ん	イ	「	陶	レ					っ	「	き	「	し	に	レ	ん
に	持	に	イ	は	と	ヒ	何	酔	イ					て	そ	く	申	た	し	イ	な
伝	っ	舐	カ	い	綺	ー	、	し	カ					「	ん	し	オ	、	カ	に	大
え	た	め	は	「	麗	ル	お	き	を						な	て	チ	ハ	が	き	く
た	で	さ	、		に	を	漏	っ	見						に	い	ン	イ	タ	く	し
。		せ			し	汚	ら	て	上						私	る	チ	ヒ	バ	し	て
		な			な	し	し	い	げ						に	だ	を	ー	コ	の	い
	自	が			「	や	て	た	る						苛	よ	踏	の	吸	る	ん
	分	ら				が	い		、						め	「	み	先	い	だ	よ
	と	、				っ	る		丈						も		つ	で	殻	い	る
	丈	綾				て	んだ		志						ら		け	、	を	ん	だ
	志	達				。お	、		の						いた		て	す	踏	だ	よ
	の	に				ま	汚		目						たい		いた	っ	み	「	
	横	目				え	ない		は						のか		ろ	かり	潰		
	に	で				の	いな		、						「		。なん	と	す		
	来	話				口	あ		す						だけ		で	勃	か		
	て	し				で			っ						る				の		
	見	かけ				ち			か						と				よ		
	る								り												



し	突	の		ル	を	し			丈			け	の			端	イ	舐	舐	
ご	き	様	し	が	あ	て	今	「	志			だ	女	レ	「	中	カ	め	め	恭
き	、	に	か	襲	げ	、	度	は	、	挨		っ	王	イ	今	止	の	さ	て	し
た	左	優	し	い	る	レ	は	、	挨	拶		た	様	カ	の	さ	鞭	いた	く	
て	右	し	、	か	と	イ	、	ち	拶	す		。°	っ	が	所	れ	が	丈	両	
	の	く	今	か	、	カ	、	ゃ	と	る			ぷ	三	ま	た	志	志	手	
	ハ	気	度	っ	オ	に	、	ん	と	こ			り	人	で	°	の	が	で	
	イ	持	は	て	チ	頭	レ	と	床	ろ			に	に	、		背	、	レ	
	ヒ	ち	前	き	ン	を	イ	床	に	か			、	質	何		中	も	イ	
	ー	よ	回	た	ン	あ	カ	に	額	ら			た	問	か		に	う	カ	
	ル	か	と	°	に	げ	様	床	を	、			だ	し	あ		飛	片	の	
	で	っ	は		前	ろ		に	付	も			だ	た	る		ん	方	ハ	
	竿	た	違		回	と		同	け	う			見	が	ー		で	の	イ	
	の	°	い		同	言		様	て	一			と	、			、	ハ	ー	
	部	軽	、		様	わ		ハ	上	度			れ	三			プ	イ	ル	
	分	く	愛		ハ	れ		イ	半	」			て	人			レ	ヒ	を	
	を	亀	撫		イ	て		ヒ	身				い	は			イ	ー	持	
	挟	頭	す		ヒ	上		ー					た	レ			が	ル	っ	
	んで	を	か		ー	身							だ	イ			一	を	っ	
		小												カ				レ	て	

め	ー		刻		で			ら	上						変		い		れ		
る	ン	「	み	レ	お	「	「	な	が						態	「	た	「	て	「	「
か	。相	ま	に	イ	泣	素	あ	い	り						だ	ふ	だ	、	「	あ	「
、	手	、	動	カ	き	敵	あ	程	、						ね	ゝ	い	、	あ	あ	あ
考	に	今	か	が	」	な	、	度	丈						え	ん	て	踏	あ	あ	レ
え	よ	の	し	、		ん	レ	に	志						。ね	、			こ	あ	イ
て	っ	が	な	踏		だ	イ	踏	の						え	踏			ん	あ	カ
お	つ	ち	が	み		。丈	様	み	両						変	ん			な	ら	様
く	て	よ	ら	つ		志	、	つ	足						態	で			に	、	」
と	、	っ	踏	け		、	素	け	を						丈	も			大	丈	
い	色	と	み	て		ほ	敵	た	持						志	ら			き	志	
い	々	痴	つ	い		ら	で	。電	っ						「	っ			く	、	
よ	と	女	け	る		、	す	気	、							て			し	ハ	
」	普	ぽ	て	右		も	」	あ	股							レ			て	イ	
	段	い	き	足		っ		ん	間							イ			る	ヒ	
	か	感	た	を		と		ま	を							カ			ん	ー	
	ら	じ		も		い		だ	強							様			だ	ル	
	ど	の		っ		い		。電	く							に			い	で	
	う	パ		と		い		気	な							踏			」	踏	
	責	タ		小		声		あ								ん			」	ま	
								ん								だ					

[illegible]

葉	で	脅	か	せ	ば	有	効	か	、	M	が	感	じ	る	の	か	、	レ	イ
カ	が	見	本	を	見	せ	、	綾	と	サ	ク	ラ	、	ユ	カ	リ	が	順	番
に	プ	レ	イ	し	た	。													
	こ	の	時	は	、	四	人	の	ミ	ス	ト	レ	ス	だ	け	で	会	話	を
交	わ	し	、	ま	る	で	丈	志	は	物	の	様	に	縛	ら	れ	、	蠟	燭
を	垂	ら	さ	れ	て	い	た	の	で	、	純	粋	に	M	の	興	奮	に	浸
っ	て	い	ら	れ	た	。													
	「	一	度	、	シ	ヤ	ワ	ー	浴	び	て	お	い	で	」				
	4	人	に	蠟	燭	を	垂	ら	さ	れ	、	体	の	前	も	後	ろ	も	蠟
燭	だ	ら	け	に	さ	れ	て	、	熱	さ	に	の	た	う	ち	ま	わ	っ	た
丈	志	の	体	は	、	全	身	汗	だ	ら	け	だ	っ	た	。				
	「	は	い	」															
	レ	イ	カ	に	言	わ	れ	、	シ	ー	ト	の	上	に	立	ち	上	が	っ
た	丈	志	は	、	蠟	燭	を	剥	が	し	始	め	た	。	自	分	で	胸	や
腕	の	蠟	燭	を	は	が	し	て	い	る	と	、	綾	と	サ	ク	ラ	と	ユ
カ	リ	が	背	中	や	お	尻	の	蠟	燭	を	剥	が	し	て	く	れ	た	。
	「	あ	、	そ	こ	は	自	分	で	は	が	し	ま	す	か	ら	」		
	ユ	カ	リ	が	、	オ	チ	ン	チ	ン	の	蠟	燭	を	剥	が	し	て	き
た	。	集	中	的	に	蠟	燭	を	浴	び	た	オ	チ	ン	チ	ン	は	、	見
事	に	蠟	燭	で	埋	め	尽	く	さ	れ	て	い	た	。					

優			た	リ	は		捨	袋	び			が	は	の	っ	い		こ	燭	
し	流	「	°	の	四	シ	て	行	ら		ユ	す	、	部	て	た	丈	う	が	ユ
く	石	大		順	つ	ャ	ら	き	か		カ	こ	そ	分	か	蠟	志	と	壊	リ
撫	に	丈		で	ん	ワ	れ	に	し		リ	と	れ	が	、	燭	の	し	れ	は
で	赤	夫		バ	這	ー	ず	な	て		が	に	も	下	流	を	痛	て	ない	、
て	く	「		ラ	い	で	に	っ	い		そ	成	か	の	石	力	み	い	よう	丈
く	な			鞭	に	体	道	た	た		れ	功	な	方	に	任	な	た	に	志
れ	っ			で	り	を	具	が	°		を	し	り	で	亀	せ	ど	°	、	の
た	た			背	、	綺	の	、	そ		大	た	の	切	頭	に	ま		根	言
°	丈			中	レイ	麗	横	そ	の		笑	°	原	れ	の	剥	る		本	葉
	志			を	カ	に	に	の	ま		い		型	て	部	が	で		か	な
	の			百	、	し	置	蠟	他		し		を	し	分	し	気		ら	ど
	背			発	サ	て	か	燭	の		な		留	ま	が	た	に		蠟	気
	中			近	ク	か	れ	の	固		が		め	っ	大	°	せ		燭	に
	を			く	ラ	ら	て	ま	まり		三		た	た	き	そ	ず		を	せ
	、			鞭	、	、	い	り	は		人		ま	、	い	の	に		引	ず
	サ			を	ユ	次	た	だ	、		に		ま	ユ	で	成	、		き	に
	ク			打	カ	に	°	け	ゴ		見		で	カ	、	果	毛		抜	、
	ラ			た		丈		は	ミ		せ		剥	リ	竿	も	に			
	が			れ		志		は							あ	付				蠟

[illegible]

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

の	身	ら	て	ミ		鳴	し		悲		う		分	状	い	き			志
激	を	、	い	ミ	一	。	ば	今	鳴		音	ヒ	で	態	る	つ	丈	「	の
痛	揺	体	っ	ズ	発		っ	ま	が		が	ュ	も	だ	か	っ	志	は	背
に	す	を	た	腫	一		た	で	続		続	ン	自	っ	ら	て	の	い	中
耐	り	出	。 丈	れ	発		、	の	い		き	。 風	信	た	だ	いた	返	く	を
え	、	来	志	が	の		本	甘	た		、	を	が	の	。 ま	。 一	事	よ	愛
て	た	る	は	、	間		当	美	。 。		そ	切	な	で	し	本	も	、	撫
い	だ	だ	声	鞭	隔		に	な			し	る	か	、	て	ま	今	丈	し
た	だ	動	に	が	が		苦	響			て	音	っ	最	は	本	ま	志	た
。	痛	か	ら	振	短		痛	き			そ	が	た	後	今	鞭	で	」	。
	み	さ	な	り	く		に	の			の	し	後	ま	は	の	と		こ
	だ	ない	い	ろ	なり		耐	一			直	た	、	で	ほ	痛	比		こ
	け	い	声	さ	、		え	切			ぐ	後		耐	と	さ	べ		を
	を	よう	を	れる	丈		て	ない			後	バ		え	ん	は	る		叩
	も	に	叫	る	志		い	、			に	チ		ら	ど	十	と		く
	た	し	び	度	の		だ	歯			、	ン		る	素	分	、		ぞ
	ら	て	な	に	背		け	を			丈	と		か	に	に	流		と
	す	、	が	増	中		の	食			志	い		、	近	知	石		。
	鞭			え	に		悲	い			の			自	い	つ	に		
																て	引		



[illegible]

「あゝ、叩かれています、もの凄く痛くて、	早く終わらないかと思ってますけど、終われば全然大丈夫ですよ」	丈志が正座に姿勢を変えながら答えた。	「大丈夫って背中じゃないけどな」	自分が、そのほとんどの責任があるのに、	レイカが笑いながら言った。	「でも、背中さすっていただけで、嬉しか	ったです。頑張って我慢したかいがあったな	って」	「そうそう、厳しい鞭の後には、甘い飴を
----------------------	--------------------------------	--------------------	------------------	---------------------	---------------	---------------------	----------------------	-----	---------------------

[illegible]